

皆さん改めて新年おめでとうございます。

景気もいざなぎ景気を越えたと言われます中で、全国各地では、まちづくり、活性化の声が大きく続いております。私共の会議所もまた1900余りの会員と共にこれからの生き残りをかけて日夜懸命にまちづくりの努力を続けておるところであります。

今、全国には大小あわせると四百三十万社の企業があります。しかしそのうちの99.8%は中小零細企業でありますから、大企業は一万社に満たない数であり、残りは429万社はすべて中小企業であります。

今まで、日本の繁栄を支えてきたと言われた中小企業は、いざなぎ景気を越える好景気の中で、全くその恩恵を受けられずむしろ厳しくなったといわれ、昨年同期あたりから中小企業の小型倒産が大変多くなっておりましては何より厳しさの証拠であります。全国で公務員等を除いた商工業界に働く人は凡そ五千万人、そのうち3500万人（70%）が中小零細業界で働いております。その市民生活の70%を支えている中小零細企業が今、市場原理主義の行き過ぎた規制緩和によって、中小、地方経済がバタバタと倒れ商店街が次々と崩壊しております。

かつて3800万人いた正社員も3400万人までリストラされ、1000万人のパートは1600万人と増え、失業者は260万人であります。

私達はこれからの中小企業を守り、安心して働き、安心して暮らせる市民生活を送るためにと、まちづくり、まちの活性化に奔走しているのであります。幸い欧米でも、市場原理主義からもっと公平な社会を望む方向へと変化し始めております。ブッシュ共和党が大敗したのも、発祥の地アメリカがフリードマンの経済論を拒否したからであります。



日本においても「まちづくり三法」が生まれ、鈴木洋邦市長もまた「夢と誇りのあるまちづくり」と提唱され、君津製鐵所もまちづくりの専門家を派遣して下さいました。わたしの思うまちづくりとは、今このまちに住んでいる人達が、豊かで安心して暮らせるまちであり、このまちで子を育て、この地で学び、この地で働き、余生を暮らせるまちがいいと思って居ます。

この君津は首都圏で、最も美しい山と川と湖があり、日本の経済をけん引する君津製鐵所があります。先人達が築き上げてくれた、伝統歴史を持つ豊かな居住圏を大切に守り、活性化もまた君津市の規模能力にあったものであり、地元企業の育成が優先順位でなければならないと思っております。また君津市の規模能力にあったものであり、地元企業の育成が優先順位でなければならないと思っております。市場原理主義に変わってBID制度、新しいまちづくりの潮流は、市民、行政、地権者、経済界が地域ぐるみで負担し、協働してつくる公平なまちづくりであります。出来れば四市ぐるみのまちづくりにしたいものであります。

昔の様に、まちぐるみで人を育て、後継者を育て、分かち合い、助け合う思いやりのあるまちを作りたいと願っております。私達会議所もまた、まだまだこれからも続くまちづくりの中で、夢と誇りと勇気を持てる様なよき相談相手として、心の安らぎの出来る会議所として役目を果たせるよう、一層の努力をいたして参りますので、皆様方のご支援をお願い申し上げ、終わりにこれからの一年が皆様方にとってよき年であります様祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。